

地域活性化へ「R倶楽部」発足1年

店舗や工房 新旧多彩に魅力発信
西陣 交流の輪広がる
4日からイベント初開催



月1回の集まりで互いの活動や近況を報告し、交流を深める「西陣R倶楽部」のメンバー(京都市北区・TAMARIBA)

歴史的な町並みが残る京都市北、上京西区の西陣地域の活性化に取り組むグループ「西陣R倶楽部」が発足1年を迎えた。新旧の多様な店舗や工房が共存する魅力を発信しようと交流を深める中で店主や職人らの間にネットワークが広がった。3月4〜10日、店舗や

工場の公開などのイベントを初めて開く。西陣では個性豊かな工房やギャラリー、飲食店などの開業が続いている。同倶楽部は地域の新旧の人たちで交流を深めようと昨年3月に活動を始めた。会員は現在約50人。店舗や工房を構える人たちのほか、保育

施設や子育て支援のNPOの代表者、飲食店の主人ら多彩な顔ぶれがそろった。月1回の交流会では、会員がスピーカーとなり、活動に込める思いを語って意見を交わしてきた。2月は伝統的な金工芸術作品の生産、販売を手掛ける京都瑞鳳堂(上京区)のギャラリー

1担当者が報告した。初参加したアクセサリー店「nacloose(ネイクローズ)」(同)の菅野のぞみさん(26)は「今まで無かった人のつながりが生まれそう」と期待する。

同倶楽部会長で、西陣の町家の保全と再生に長年携わってきた宗田好史京都府立大副学長は「当初想定したアートの関係にとどまらない幅広い人が参加しており、西陣の新たな文化の流れが生まれつつある」と手応えをつかんでいる。

イベント「西陣ウィーク」は、一帯の店舗や工房など20カ所が会場となる。伝統工芸の体験、親子の遊び場、絵本の読み聞かせ講座などを行う。一部有料。詳しくは同倶楽部のホームページで。問い合わせは事務局のフラットエージェンシー075(431)0669。

(沢田亮英)